

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年7月30日）

新潟県や福島県での集中豪雨の被害が報じられる中、弘前も朝からお天気が少し心配な日でした。本日の活動への参加者は30名で、うちわけは、男性17名、女性13名、所属では、学生11名、市民18名、教員1名でした。今回も初参加の方が多かったようです。本日の事務局は、南部さんと山口で担当しました。

野田村災害ボランティア・センターの方の話によると、本日のセンターを通じたボランティア数は、団体4つ（64名）と個人7名で、計71名でした。作業は5件だったそうです。



今日も笑顔で集合写真。少々曇り空のなか。



昼ご飯のお汁は、精進料理の「けいらん」を初賞味。

今日の「チーム・オール弘前」の活動は大きく3つに分かれました。

一つ目の15名のグループは、海岸により近いエリアでのガレキ撤去やガラスの片付け、草刈り、草むしりなどの作業を行いました。午後はかなり気温が上がったので疲れた、という声も多かったようです。初参加の方が、「最初見た時には、もともとこんな感じだったのかなあと思いましたが、土の中から食器や車のカギなどが出てくると、やっぱりその人の生活があって、と考えました」と感想をおっしゃっていました。それは一面の土色と灰色の風景だったところが、時間がたつにつれてガレキが減り、緑の草に覆われるようになったからこそであり、感慨深く感じました。

二つ目の5名のグループは、個人宅での枯れ木の撤去や抜根作業でした。こちらは何度も作業させていただいているお宅で、家主さんともすっかり顔なじみです。屋外作業のプロである高橋さんが、「抜根作業は重労働だった！」と一言。木の根は想像以上にきつく張っており、それを取り除くのは大変な作業だったようですが、すべてやり終えたそうです。

三つ目の10名のグループは、「チーム北リアス」の宿泊施設建設のための整地作業にあたりました。「チーム北リアス」は、被害を受けた北リアス地域の支援・交流のためにさまざまな団体・個人がゆるやかにつながるネットワークです。私はこちらの作業を行ったので、やや詳しく紹介します。今回の作業は、日本災害救援ボランティアネットワークの渥美先生の指示のもと、函館高専と八戸高専の学生達と先生、関西から来た永田先生とゼミの学生達、久慈市からボランティアで参加されている女性の方など、30名弱での共同作業となりました。施設を作る場所を確保するため、

丸太を退かしたり、桜の木を切り倒したりしました。最初は異なるチーム同士の声かけが少なく、作業中ヒヤリとする場面もあったようですが、時間がたつにつれて話もはずみ、良い交流の機会にもなったようです。家主さんからは差し入れを頂戴し、おいしくいただきました。



宿泊施設建設のため、木を退かしたり、切ったり。



数時間の格闘の末、ついに桜の木を倒し、満面の笑顔！

午後は、渥美先生と一緒に2か所の仮設住宅へ行き、以前に震災経験がある輪島市の方々のお手製「和み(なごみ)バック」をお届けしました。それは住民の方とお話をするきっかけになったのですが、仮設住宅が家族の数に比べて狭くてとても大変、と苦勞を語ってくださる方がいました。また、女子学生2人は、明日行われる子どもたちのイベントのための手伝いに回りました。子どもと一緒にあったのが楽しかったようで、帰りに迎えに行くと、はじけるような笑顔がこぼれていました。残りの男性チームは、桜の木を切り倒した後、その家主さんや飼い犬(きらら)とゆっくりお話ができたようです。

帰りのバスでは、成田さんからワークショップの報告をしていただいたり、ねふた参加者募集の切実なお願いがあったり、ねふたの打ち上げの案内などのインフォメーションも盛りだくさんでした。結局、お天気も崩れることなく、無事に活動は終わりました。

(人文学部・山口恵子記)



野田中学校の仮設住宅は、今日は断熱材の工事中。



和みバックの一例。中にはお手紙も同封。